

阪神高速道路株式会社

阪神高速道路の長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会（第2回）資料

No.2-1

日付：平成24年12月22日

第1回委員会 議事要旨

平成24年12月22日

阪神高速道路株式会社

阪神高速道路の長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会
第1回委員会 議事要旨

日時：平成24年11月8日（木）10:00～12:10

場所：阪神高速道路（株）11F 会議室

出席：委員長：渡邊 英一（京都大学名誉教授）

委員：小林 潔司（京都大学経営管理大学院 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

西井 和夫（流通科学大学総合政策学部 教授）

（欠席：森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授））

議事：

1. 委員会設立趣意
2. 審議事項
3. 阪神高速道路ネットワークの状況
4. 阪神高速道路構造物の状況
5. 長期維持管理の新たな視点
6. 今後のスケジュール

主な意見：

- ・ これまで阪神高速道路で構築してきた橋梁マネジメントシステムを踏まえたうえで、劣化の加速や再劣化の状況を勘案し、大規模更新をも視野に入れて今後その改良すべき課題を整理したい。
- ・ 補修すべき損傷が累積されているように見受けられるが、損傷の状況を適切に判断し、安全性を確保しているということを説明すべきである。
- ・ 「大規模更新」の具体的な判断基準を議論したい。劣化要因に加え「機能上の問題」なども更新の対象となりうると考えられる。
- ・ 大規模更新を実施する場合にはネットワークの整備状況が社会的影響を大きく左右すると思われる。具体的な検討にはネットワークの整備状況を与条件として加味せねばならない。
- ・ 再劣化、劣化速度などをどのように把握してリスクを軽減していくかという技術的な課題に取り組む必要がある。
- ・ 修繕か、単に更新するかどうかを検討するだけでなく、健全性の評価技術の向上や延命化技術の開発にも注力すべきである。
- ・ 大規模更新を議論する場合、長期的にはネットワークや物流機能などを踏まえて判断する必要がある。ただしこのことは基本的には本委員会の審議対象外であるが、主要な課題を整理するという理解で臨むことが大切である。
- ・ 新しい路線を建設することにより既存の路線の負担が軽減されるといったメリットがあることも議論する必要がある。

以上